



議 会

によどがわ

だより

2006.11
第5号

第一回「しもの祭」

十月二十二日（日）、紙ヒコウキ飛ばし大会、優勝賞金三万円の「爆笑大会」と、笑いのなかで、秋の田舎料理を存分に堪能した一日でした。（名野川磐門神楽・豊熟の舞）



九月定例会

耐震診断の現況は……………2P

森と土居がさびれるが…6P

木材産業を立ち上げ、雇用の場の創出を ……………11P

引地公園を橋防災の残土処理場に……………14P

跡地利用について意見（要望）が分かれました

（淡水魚センター・消防訓練施設・雇用の場） ……18P



山村自然楽校 しもの郷（下名野川）

高知県仁淀川町議会

TEL 0889 (35) 0111 / FAX (35) 0571 / 発行人: 議長 橋本真一 / 編集: 議会だより特別委員会 / 印刷: 賀佐川印刷所

一 般 質 問

平成18年9月定例会は、12日に招集され、会期を14日までの3日間とし、12日、諸般の報告（議長、町長、教育長、委員長）、議案の上程、提案理由の説明。13日は、一般質問。14日は、議案の審議、討論、採決を行い、1報告、20議案、1諮問を原案どおり可決、1請願を採択、3意見書を提出し閉会した。



耐震診断の現況は？

答 80%が未実施！

問

福原克彦

国は耐震改修、診断を地震対策のかなめと自治体に求めている。新町の事務所に使用の施設と町営住宅などの対象となる

施設数及び耐震診断済みは。今後の対応を伺う。

名野川小の耐震化は終わったが、他の学校、体育館で一次診断に続き詳しい二次診断を受けた箇所は。また、学校と同様に防災拠点となる公民館

答

町長

などの診断と、休校の校舎はどうか伺う。

町が設置の施設のうち、昭和五十六年以前に建築の物が37。内訳は事務所などが25、住宅関連が12。診断済み事務所1、工法自体が診断不用の住宅関連5。耐震診断を要する施設は31になる。今後は優先順位などを検討の上、耐震診断を実施したいと考えている。

唯一、耐震補強工事が終了した名野川小学校では、10月13日（金）に恒例の八幡奉納相撲がとり行われた。

合併して一年が過ぎました。

答
教育長

学校の一次診断は休校の校舎を除きすべて実施。二次診断は名野川小以外は無実施、体育館は一次診断は省略され、二次診断から4件が終了。

今後、耐震補強が必要なのは小学校2件、中学校3件、体育館4件、幼稚園2件、公民館2件、スポーツセンター1件。

旧三町村間での調整を含め優先度等を勘案し、小学校の校舎及び体育館から取り組んでいる。

問
福 原

施設の耐震診断には積極的に取り組み、個人の戸建て住宅への補助制度がない四町村に仁淀川町も入っている。耐震改修、診断補助制度の導入が急務では。

答
町 長

県内のほとんどの市町村で制度化されている耐震診断だけでも早急に補助金交付要綱を検討し対

応したい。

橋への対応は

答 土居川・富岡橋の補強工事が急務

問
福 原

県は旧53市町村の役場へ通じる道路の整備を重

点的に行うことで心配ないが、町管理の竣工後50年を経過した橋及び海砂による早期劣化が確認されている昭和36年から40

年代後半に建設の延長20m以上の橋と調査済みの橋数を同う。

南海地震が襲来し、橋が車両通行不能時に、施

設の孤立が想定される特養もみじ荘、安部病院のある岩丸地区に行くには土居川橋、富岡橋、岩丸橋があり、3橋とも50年

以上が早期劣化橋の対象となる。土居川橋は調査済みだが2橋も損傷がみられ、また給食センターに架かるトサキ橋も鋼材腐食が予想され、3橋は専門家の調査が必要では。特に土居川橋は調査報告書をみると南海地震の前に橋がないことさえ考えられ、早急な耐震補強の対応が望まれるが、技術者でもある助役に報告書・現地を見た所見を同う。

答
町 長

50年以上4橋、30年以上21橋の計25橋。うち調査済みは池川の2橋のみ。

答
助 役

土居川橋、富岡橋は老朽化が激しく、有利な制度に乗せ早急に耐震補強に取り組む。岩丸・トサキ橋を含め古い橋も点検などを通じ、利用度や危険度を考慮しながら調査や工事をしていきたい。



土居川橋（池川）



富岡橋（池川）





直前のボイコットの理由は

答

安易な気持ちでは
出席できない

問

若藤敏久

主人公は地域住民

答

助役

執行部は政治の主人公を間違えているように思える。公務員は全体の奉仕者であって一部の奉仕者ではないはずだが、給料を支払っている雇い主は誰か同う。

懇親会はお互いの労をねぎらい、今後の町づくりを話し合う重要な意味を持つ会合だと思うが、六月定例会終了後の懇親会の参加者は議員と議会議務局長だけで執行部からは一人もいなかった。

「今後住民の代表である議員と話し合う必要はない」と理解してよいのか。直前になって懇親会をボイコットした理由を伺う。

懇親会欠席は組織の一員として

答

仁淀支所長

懇親会には課長全員参加の予定だったが、二件の議案が議決されない為に、町長始め幹部が出席をしないので組織の一員として仁淀総合支所も欠席をした。

首長に従い欠席

答

池川支所長

首長が出席をしないと表明した場合、職員個々の判断で出席することは考えられない。迷ったが首長の欠席の意思が明確な以上、職員も出席するわけにはいかないと判断をした。

継続審議が違法なら首を差し出す

問

若藤

「適切な答弁」と申し上げたいが、町長の言いなりでは全体の奉仕者とはいえない。

お手伝いを雇い精魂込めて作った料理がほとんど手つかずに残った店の主人のことを少しは考えたのか、金を払えば良いという問題ではない。

幹部の中に一人でも、「町長に怒られても出席をする」という者がいなかったことが情けない。

助役、町長の女房役だ、助役としての完全な工事責任として第一義であり、安易な気持ちで懇親会に出席はできなかった。

六月議会で二つの議案を継続審議にしたのは、地方自治法に則り議会が満場一致で議決をしたものだ。

この議決に法的な誤りがあれば私はいつでも辞職する。

町長は議会は「議決か否決の二つに一つ」との

考えだが議員経験を持つ人の言うことではない。

提出された二つの議案は予定価格の百%で落札されており、価格が事前に漏えいした疑いがあつた。かといって談合の確たる証拠もない状況下では、継続審議が議会として取るべき唯一の道であつた。議会のどこに間違いがあるのか。

議会が町の発展に尽くすかが課題

答

町長

助役、両支所長に大変なお叱りだが、執行者の責任として完全な工事責任が第一義であり、安易な気持ちで懇親会に出席はできなかった。

名野川小学校の耐震工事は夏休み中に完了しなければ子どもや父兄達に迷惑をかける。

県や教育委員会からも早期着工を要望されており、六月議会は予定より一週間早めて開催をした。それが継続審議とな

ったことで10日間は工事が遅れる。

議会が住民の為にという意思であれば会期延長で議決するのが健全だと思ふ。

私は災害工事及び耐震工事を急ぎたかつた気持ちから懇親会には出席をしなかったが、我々は一心同体で事業を実施しており私が全責任を負う。

議会と執行部は立場が違う

問

若藤

声を大にしての答弁で、県や教育委員会の要望があり夏休み中の工事完了を願ひ、議会を一周間繰り上げたとのことだがそのようなことは議会は何も聞いていないし誰も知らない。

町長のように日なたを見れば、我々は日影を見、二つの目で見て住民の福祉を向上させるために議会が存在している。

目的は同じでも議会と執行部は対立対等立場が違う。工事の施工以前

に重要なのは適正な競争入札である。

名野川小学校の耐震工事も大切だが池川や大崎、仁淀の子どもたちはどうなってもいいのか！

先ほどの答弁は全町の耐震工事を提案し、議会が全ての議案を継続審議としたときにするべきだ。

執行部のすべてが正しいとは思わない

答

町長

議会と対立する考えはない。住民の納得する事業を遂行したい思いから懇親会を欠席した。名野川小学校だけではないと言われるが、まさにその通りである。今後は順次財政の許す範囲で進めていく。

人間である限り、執行部のすることがすべて正しいとは思っていない。お互い切磋琢磨して仁淀川町発展に期したい。



寺野駄馬線の開設を

答 有利な補助事業を検討して

問

西森久雄

長者地域の寺野地区から竹谷地区へは四百m程度と思う。両地区で、六世帯、十二人が生活しており、帰省客、また、緊急・災害時には、苦勞することが考えられる。寺野駄馬線開設の検討を。

答

町長

七月二十六日付で長者地域から要望が提出され、九月一日には産業建設常任委員会が現地視察を行い、新設の推進を図るべきということだが、町としても、財政的に大変厳しい状況であり、今後、少しでも有利な事業の推進を検討していきたい。



9月1日、産業建設常任委員会は、現地を踏査。地元区長より説明を受ける。(長者)



森と土居がさびれるが

答 合併協議会の決定を尊重

問

西森常晴

九月六日、天皇家には41年ぶりに男児が誕生した。悠仁親王の健やかな成長とともに、沈滞化する仁淀川町の発展を望む。

先般、山田洋次監督の「幸せの黄色いハンカチ」の舞台となった夕張市が破産した。

破産の原因の一つに、議会のチェック機能が働いていなかったことがあげられている。

住民の負託にこたえるためには、執行部に嫌がれようともあえて質問する。

総合支所方式を採用した本町だが、この方式は本庁のある大崎地区は問題ないが、支所の置かれた、森（仁淀）、土居（池川）は確実にさびれていく。

総務・企画は森へ、産業建設は土居へ、福祉は大崎へと分庁方式に変更する考えはないか。

答

町長

現在の方式は、行政の効率化が図りにくい。まとまりと一体感に欠ける欠点はあるが、旧庁舎が有効に活用できる。大規模改修が不要で、合併時

事務の調整面でも非効率だ。

現段階では、職員数からみても「総合支所方式」が本町に最も適した方式だと考えている。

問

西森

今、職員の中で「本庁勤務は栄転で、支所へはその逆」と、まことしや



仁淀川町の中心地として、施設の拡充が予測される公民館周辺（大崎）

の混乱が生じにくい利点があったと解釈している。

一方、分庁方式は、サービス低下を招き、行政

「分庁方式」の導入は職員の減少には対応できるが、行政の効率化、住民サービスの維持の点では逆行する恐れがある。

かに言われているのを町長は知っているか。

私は、住民サービスが総合支所方式が優れているとは思わない。

答

町長

合併協議会で検討した結果を尊重し、時代の流れによって変わるかも知れないが、当分、変える考えはない。

問

西森

大阪万博の「太陽の塔」の作者、岡本太郎が日大芸術学部での講演で「この会場の中で、私の考えに賛同する人が一人でもいれば、その人に私は語る」と言ったそうだが、私は、早晩、総合支所方式の選択の間違いに気づく日が来ると思う。

執行者は町長で、町長は町民が選んだわけので、これ以上は言わないが、少々聞く耳をもったような感じをうけたので、前向きに検討を。

防災対策は万全か

答 防災計画に沿って対応

問

西 森

防災対策は万全か。

答

助 役

昨年度から、仁淀川町地域防災計画の策定作業を行っている。

現在、委員会審議を経て、県の審査を受けているところで、十月には策定の見込みとなつてい

る。地震が起きた場合は、基本的にはその防災計画に沿って対応していくことになる

問

西 森

一昨年、新潟県の山古志村が被害を受けた。当時の村長は、今、衆議院議員だ、地震の後の対応がよかった。山古志村は連絡網が徹底しており、的確な対応ができた

議長一ロメモ!

交通安全

合併して一年が過ぎ暑い夏も終わりました。

三地区での夏の行事、清流祭り、茶霧湖祭り、

玄蕃祭りで行われ故郷に帰省され友と盃を交わし

昔話に花を咲かせ、いつときの和と故郷のすばらしさを感じていただいたことでしょう。

さて、最近悲惨な交通事故が全国で多発、特に

飲酒事故、高齢者、子どもの事故が多く尊い人命が失われています。なべ料理、日本酒の美味しい季節となりましたが、交通事故を起こさないよう、飲酒運転をしないように町民揃って啓発をお願いします。

乗る人には飲ませない飲んだら乗らない明るく、楽しく、笑いの町をつくりましょう。

いている。形だけのペーパーを作っても意味がないが、大丈夫か。

答

総務課長

災害は、いつでも起こるかわからない。日ごろから個人が防災への備えをするとともに、防災

物資の充実、施設などの整備、耐震化、そして自主防災組織の育成など、ハード・ソフト面から整備を図っていかねばならないと考えている。



9月3日、旧カ町村で一斉に防災訓練が行われました (川渡)



分庁方式へ変換を

答 検討の余地はない

問

片岡政徳

総合支所方式は支所から提示された案件はすべて本庁で審査、決定となる本庁中心である。今後職員減に伴い、支所で直接住民につながらない課は決定権のある本庁業務となる。支所は窓口業務のみで、職員は減っていくと思われる。

町長の掲げる格差のない行政を図るならば、分庁方式に変え、各地域の職員を一定させ、旧三町村の交流も促し、格差のない地域づくりを進める分庁方式への見直しは。

答

町長

分庁方式がどうしているか、議員に伺う。

問

片岡

分庁方式に見直すのは「なかでか」と聞かれたが、支所方式では、職員が減り、地域がさびれていくといった問題が起これてくる。支所が窓口業務だけになることが、理想的な方式かどうか聞く。

答

町長

各町村の行政が極端に変化しないように支所方式をとっている。分庁方式では住民サービスができない。課を分けるとロスがある、非効率である。職員の数は簡単には減らない。統合して住民サービスの低下を招かない方式を検討。職員が少なくて済むのは本庁方式、次に分庁方式であるが支

問

片岡

所方式が住民にとって一番ベターと確信する。

十年先の各支所地域の衰えを考えた場合、「支所方式がベター、絶対だ」とはいえない、検討を。

答

町長

分庁方式は検討する余地はない。

区長組織

区割りの検討を

問

片岡

区長制度は、行政運営に重要で、地区の内容も周知している。高齢化が進み、独居老人も多くなっているが区長とは常につながりをもっている。

地区の統合も視野に入れ検討

答

町長

区長制度は、旧三町村の制度を基本的に引き継いでいる。過疎化、高齢化で区長がいなくなるようなことも考えられる。

今後、地区の統合も視野に入れ検討していく。仁淀地域には、いくつかの集落を代表する地域長がいる。拠点となる集落の整備を地域の声に順位をつけ、開発を考えていきたい。

高齢化で地域の維持ができない場合、地域担当職員は地域の意見を伝え行政をどのように進めたいか示唆を与えてもらうために置いている。



合併して1年が経過、支所周辺の疲弊化が心配される（土居）